

# 日本カリキュラム学会 広報・若手育成委員会

## 第3回若手育成セミナー

### フィールドにおけるカリキュラム研究をどのように論文にするか

#### 趣旨:

広報・若手育成委員会は、2024年2月23日(金・祝)の10:00~12:00(オンライン)で、フィールド研究の論文のあり方について検討します。カリキュラム研究では、特に近年、政策の動きなどを踏まえ、カリキュラム・マネジメントの実態やカリキュラム評価の具体などのフィールド研究による論考が増えています。こうしたフィールド研究論文は、カリキュラム研究における理論と実践の往還を促進させ、知見を洗練させていく上で重要な役割を果たしています。

その一方で、カリキュラム研究においてフィールド研究論文を執筆する上では、多様な課題が想定されます。第1は、そもそも何に焦点を合わせるべきなのか。計画の段階であるのか。実践中・実践後の結果であるのかといった研究の焦点の問題です。第2は、誰のデータをどこまでどのようにとるのか、という研究計画に関する問題です。第3は、とったデータを誰がどのように整理し、分析するのかです。もちろん、どのような研究論文でもこうした問題はあり得ますが、とりわけカリキュラム研究としてのフィールド研究では、タイムスパンの長さや、関わる教員や研究者が教科や授業・学校段階の枠組みを超えて多岐に及びます。従来培われてきた授業ベースの実践研究論文の伝統を再構成する必要性・あるいは執筆者同士の関係性などの問題も絡み合い、これらの問いはより複雑化するともいえるでしょう。

この集会では、現在フィールド研究を行っている／行った方々と共に、これから研究を始める方に対して、登壇者の話題提供をもとに、参加者同士で議論を深めながら共有していく主旨となります。前半は、前紀要編集委員から、フィールド研究のカリキュラム研究上の意義や、研究論文／実践研究論文の違い等についての説明をいただき、2名の会員から、ご自身の執筆した論文を事例に話題提供していただきます。とりわけ、研究の焦点や主体・研究方法やまとめ方についてお話ししていただきます。後半は、「フィールドにおけるカリキュラム研究論文で何が課題となるか」といった点について、ブレイクアウト・グループに分かれて検討し、意見を交換し、知見を深めてゆきます。

本集会を通して、今後のカリキュラム研究を作る若手研究者のみなさんと共に、カリキュラム研究としてのフィールド研究論文のあり方や方向性などを検討する時間にしたいと思います。お誘いあわせのうえ、ふるってご参加下さい。

#### 日時:

2024年2月23日(金・祝) 10:00~12:00 ※9:45ごろから入室可。

#### 形態:

Zoomによるオンライン配信

## プログラム:

0. オープニング: 10分 (趣旨説明など)
1. 話題提供(1): 15分  
「カリキュラム研究におけるフィールド研究の意義」(南山大学 高橋亜希子理事)
2. 話題提供(2): 40分  
「フィールドにおける実践研究論文をどのように執筆したか」(三重大学 園部友里恵会員)  
「フィールドにおける研究論文をどのように執筆したか」(大阪教育大学 木原俊行会員)
3. 論点整理&グループでの対話: 15分 (ブレイクアウトを使用)
4. 話題提供者とフロアとのディスカッション: 30分
5. クロージング: 10分 (その後、希望者が残って延長の懇親会)

## コーディネーター・司会:

西岡加名恵(京都大学)、川口広美(広島大学)

## 参加費:

無料(会員以外の方でもご参加いただけます)

## 参加申込:

参加希望者は、下記の URL から参加申込を行ってください。

<https://forms.gle/uhkzfH3sJarDHJeGA>

2月19日(月)を参加申込締切とします。

参加申込された方には、2月21日(水)までに、接続に必要な情報がメールで送付されます。

届かない場合は、「迷惑メール」のフォルダに入っていないか、ご確認ください。

## 問い合わせ先:

西岡加名恵 ([nishioka.kanae.2v@kyoto-u.ac.jp](mailto:nishioka.kanae.2v@kyoto-u.ac.jp))